



アドビシステムズ株式会社
141-0032 品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー 19F

小学館がデータ解析ソリューション Adobe Analytics を採用し、 電子雑誌の閲覧体験を最適化

導入済みの電子出版ソリューションの Adobe Digital Publishing Solution
との組み合わせで、より詳細な読者の閲覧傾向の解析を実現

【2015年7月9日】

アドビシステムズ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：佐分利 ユージン、以下 アドビ）は、株式会社小学館（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：相賀昌宏、以下 小学館）が展開する女性ファッション誌を含む 12 誌の電子雑誌の閲覧傾向を分析するため、[Adobe Marketing Cloud](#) のデータ解析ソリューションである [Adobe Analytics](#) を採用したことを発表しました。日本の出版社で、[Adobe Digital Publishing Solution](#) (DPS) と Adobe Analytics を組み合わせた採用事例は今回が初となります。

小学館は、ファッション誌の電子雑誌として、「CanCam」、「美的」、「AneCan」、「Oggi」、「Domani」、「和楽」、「Precious」、「MEN'S Precious」、「SAKURA」の計 9 誌の配信を 2013 年 9 月から開始し、現在では計 12 誌の電子版を展開しています。これらの電子雑誌は、ファッション、ビューティーライフスタイルの豊富な情報を掲載する紙版と同様に、クオリティの高い写真素材と文章がスマートフォン、タブレットなどのモバイルデバイスで楽しめるデジタルマガジンです。小学館はこれらの電子雑誌の制作・配信において、アドビが提供する電子出版ソリューションである Adobe Digital Publishing Solution を導入しており、Adobe InDesign でデザイン、制作したコンテンツにクーポンコードを付与する仕組みを使って、紙版と電子版を連動させたコンテンツ展開をしてきました。また、Adobe DPS が持つ解析機能を使って、読者がどのページや特集を見ているのか、どのデバイスで閲覧しているのかなど、読者層ごとの閲覧状況の分析や電子雑誌の体験促進のために活用してきました。

Adobe DPS を活用する中で、読者の閲覧状況に関するより高度なデータ解析へのニーズが高まったことで、Adobe DPS との親和性が高い、アドビのデータ解析ソリューションである Adobe Analytics が採用されました。これにより、読者の記事や広告の閲覧状況、平均滞在時間、アプリのダウンロード数などをリアルタイムで収集、解析、効果測定し、記事のコンテンツや広告の最適化を検証していくことができます。コンテンツ毎のデータ可視化、読者の離脱分析、モバイルアプリの分析、モバイルアプリ内のコンバージョン分析、動画分析など様々な分析を行うことができるため、これらのデータ解析を通じて電子雑誌の閲覧体験をさらに高めることができます。

また、小学館では、これまで個々の電子雑誌の特集ごとに閲覧時間などを分析してきましたが、Adobe Analytics の導入により、複数の電子雑誌を横断してコンテンツを分析できるようになります。

Adobe Analytics を最大限に活用するため、小学館はアドビのプレミアパートナーである株式会社アイ・エム・ジェイによるコンサルティングサービスのもと、Adobe Analytics で分

析したデータの戦略的な活用方法を模索していきます。

小学館 デジタル事業局 コンテンツ営業室課長の小沢清人氏は、「Adobe Analytics はオーディエンスデータの収集・統合、分析、広告配信といった一連の機能の連携があらかじめ取れているため、余計な開発や投資をすることなく、広告運用の効率化を図り、顧客と最適なコミュニケーションがとれるようにするという我々のビジョンの実現が可能になると判断しました」と述べています。

Adobe Marketing Cloud について

Adobe Marketing Cloud は、様々なデバイスとデジタルタッチポイントを通じてマーケティングコンテンツの高度なパーソナライゼーションを実現することでビッグデータを駆使し、顧客と見込み客への効果的なリーチとエンゲージメントを支援します。密接に統合された 8 つのソリューションにより、分析、Web/アプリのエクスペリエンス管理、テスト/ターゲティング、広告、ソーシャルエンゲージメント、キャンペーン管理に重点を置いた、包括的なマーケティングテクノロジーをメーカーに提供します。また、Adobe Creative Cloud との連携機能により、あらゆるマーケティングチャネルにおいて、クリエイティブアセットを容易に活用できます。Adobe Marketing Cloud は、Fortune 50 企業の 2/3 をはじめ、世界中の多くの企業に採用されており、そのトランザクション処理件数は年間 30 兆 5,000 億件以上に上ります。

アドビについて

アドビは、世界を動かすデジタル体験を提供します。

アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、[Web サイト](#)に掲載されています。

Adobe, the Adobe logo, Adobe Analytics, Adobe Marketing Cloud, Creative Cloud and InDesign are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries.

©2015 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. All other trademarks are the property of their respective owners.